

2016年度（2017年3月期）
第1四半期 決算説明会

2016年7月28日

セイコーエプソン株式会社

■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本説明資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。そのため、実際の業績はさまざまな要素により、記載された見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与える要素としては、日本および海外の経済情勢、市場におけるエプソンの新商品・新サービスの開発・提供とそれらに対する需要の動向、価格競争を含む他社との競合、テクノロジーの変化、為替の変動などが含まれます。

なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。

■ 事業利益について

事業利益は、売上収益から売上原価、販売費及び一般管理費を控除して算出しております。

連結包括利益計算書上に定義されていない指標であるものの、日本基準の営業利益とほぼ同じ概念であることから、連結財務諸表の利用者がエプソンの業績を評価する上でも有用な情報であると判断し、追加的に開示しております。

■ 第2四半期累計期間の業績予想開示について

2016年度より、第2四半期累計期間については、業績予想の開示を行いません。

■ 本説明資料における表示方法

数値：表示単位未満を切り捨て 比率：円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入

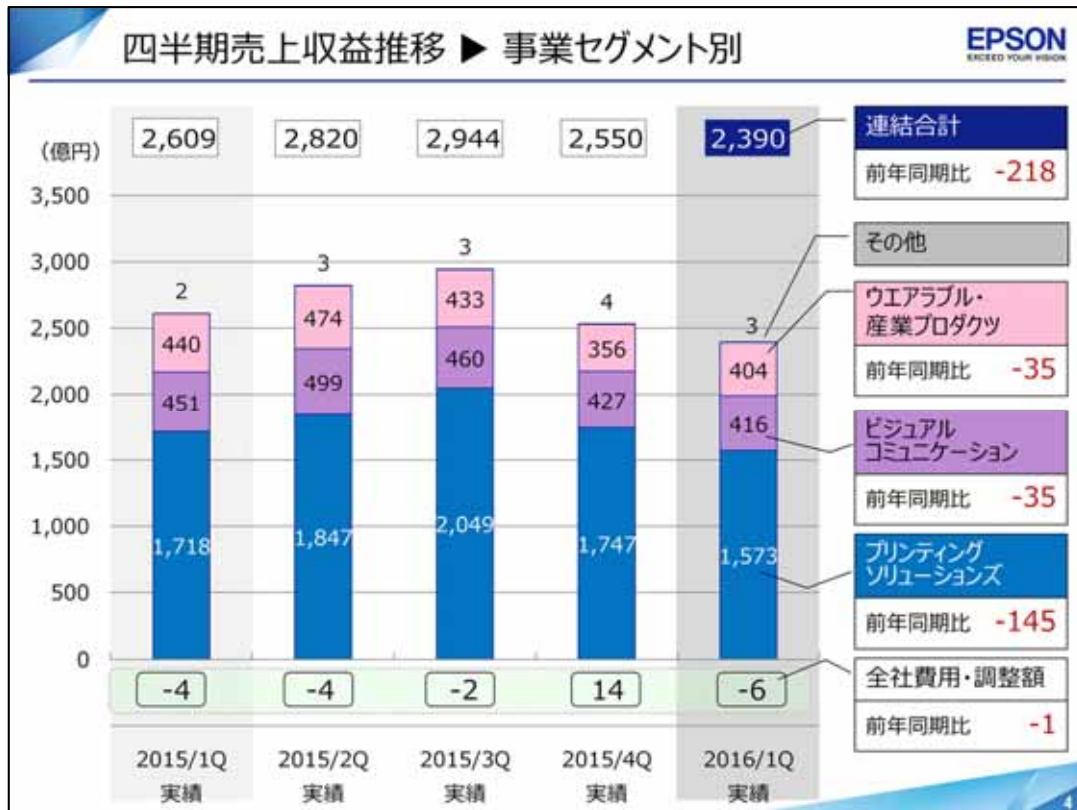
1. 2016年度 第1四半期決算
2. 2016年度 業績予想

決算ハイライト (第1四半期)

(億円)	2015年度		2016年度		増減額	増減率			
	1Q実績	%	1Q実績	%					
売上収益	2,609	-	2,390	-	-218	-8.4%			
事業利益	165	6.3%	64	2.7%	-100	-60.8%			
営業利益	162	6.2%	69	2.9%	-93	-57.2%			
税引前 四半期利益	160	6.1%	63	2.7%	-96	-60.3%			
四半期利益	105	4.0%	42	1.8%	-63	-60.2%			
EPS	29.43 円		11.58 円		為替影響額 (億円)				
換算 レート	USD	121.36 円	108.15 円		USD	EUR	他	計	
	EUR	134.16 円	122.02 円		売上 収益	△92	△39	△142	△274
					事業 利益	+20	△27	△61	△68

■ 2016年度 第1四半期実績

- 売上収益は、前年同期比 218億円減収の 2,390億円、事業利益は、前年同期比 100億円減益の 64億円、四半期利益は、前年同期比 63億円減益の 42億円。
- 当四半期の為替影響は、売上収益で274億円、事業利益で68億円の、マイナス影響を受けた。
- USDやユーロに加え、中国人民元が約15%、中南米でも、アルゼンチンペソが40%以上、ブラジルリアルやメキシコペソが約20%も、円に対して下落するなど、円の独歩高となったことで、大きな影響を受けた。

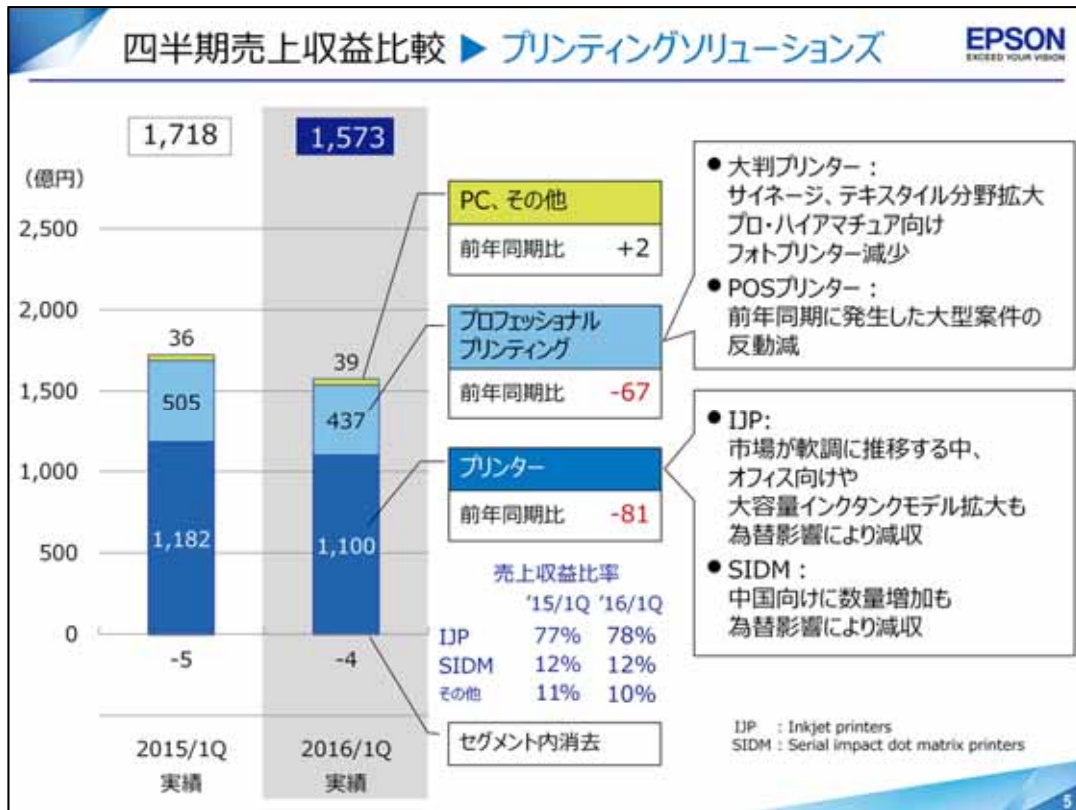


■ 事業セグメント別の四半期 売上収益推移

■ ビジュアルコミュニケーション事業セグメントの第1四半期売上収益の前年同期比較

➤ プロジェクターが、南米では、景気低迷の継続により販売が落ち込む一方、欧州で、サッカーイベントに同期したプロモーション活動の強化や、東南アジアやインドで、チャンネル開拓や店頭における画質の訴求などの販売活動を推進したことなどにより、普及価格帯を中心に販売が増加し、前年同期を大きく上回る9%の数量成長を果たした。

➤ しかし、海外向けの販売比率が高いこともあり、為替の影響により、減収。



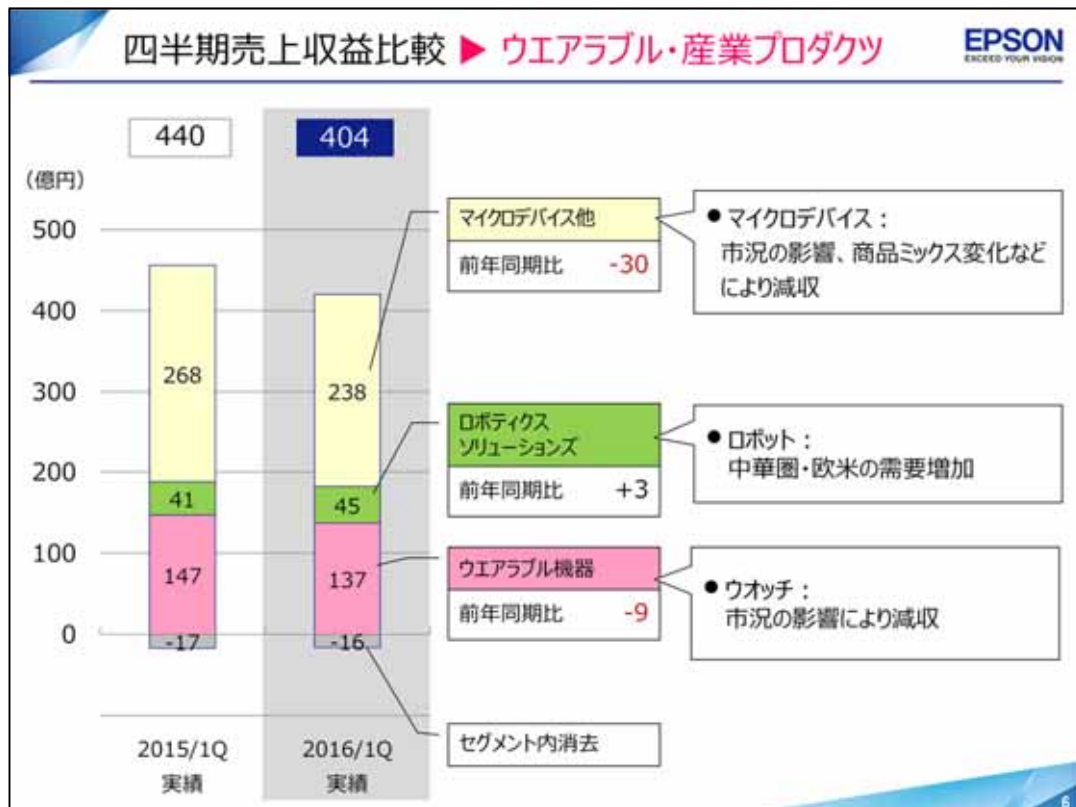
■ プリンティングソリューションズ事業セグメントの第1四半期売上収益の前年同期比較

➤ プリンター事業について。

➤ インクジェットプリンターは、市場自体が先進国を中心に軟調に推移する中、エプソンの販売数量は、日本において減少したものの、北米や西欧では、オフィス向けの普及価格帯を中心に販売を伸ばすとともに、大容量インクタンクモデルがエマージング市場や西欧で伸長し、米日でも販売を開始したことから、全体の販売数量は前年同期に対して8%の増加。インクも、北米や西欧などが牽引し、引き続き堅調に推移。しかし、為替の影響により、インクジェットプリンターは減収。

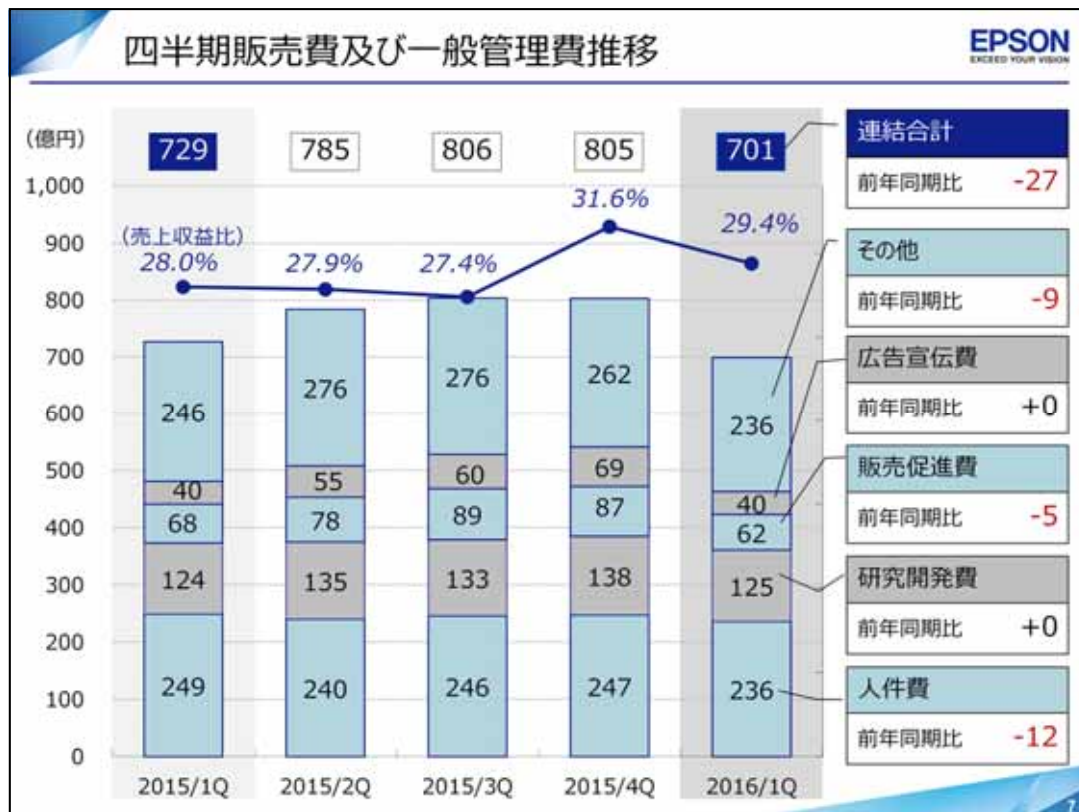
➤ SIDMは、中国の徴税システム変更による需要の増加を確実に取り込んだことから19%の数量増となったが、人民元などの為替影響により、減収。

➤ プロフェッショナルプリンティング事業は、戦略的に取り組んでいるサイネージやテキスタイル分野向けは順調に成長。一方で、既存分野であるフォト・グラフィックスでは、大判プリンターは安定的に推移しているが、プロ・ハイアマチュア向けフォトプリンターは、競合による価格攻勢が継続。また、POSプリンターで、前年同期には、一時的に発生した大型案件があったこと、加えて為替の影響により、事業合計では減収。



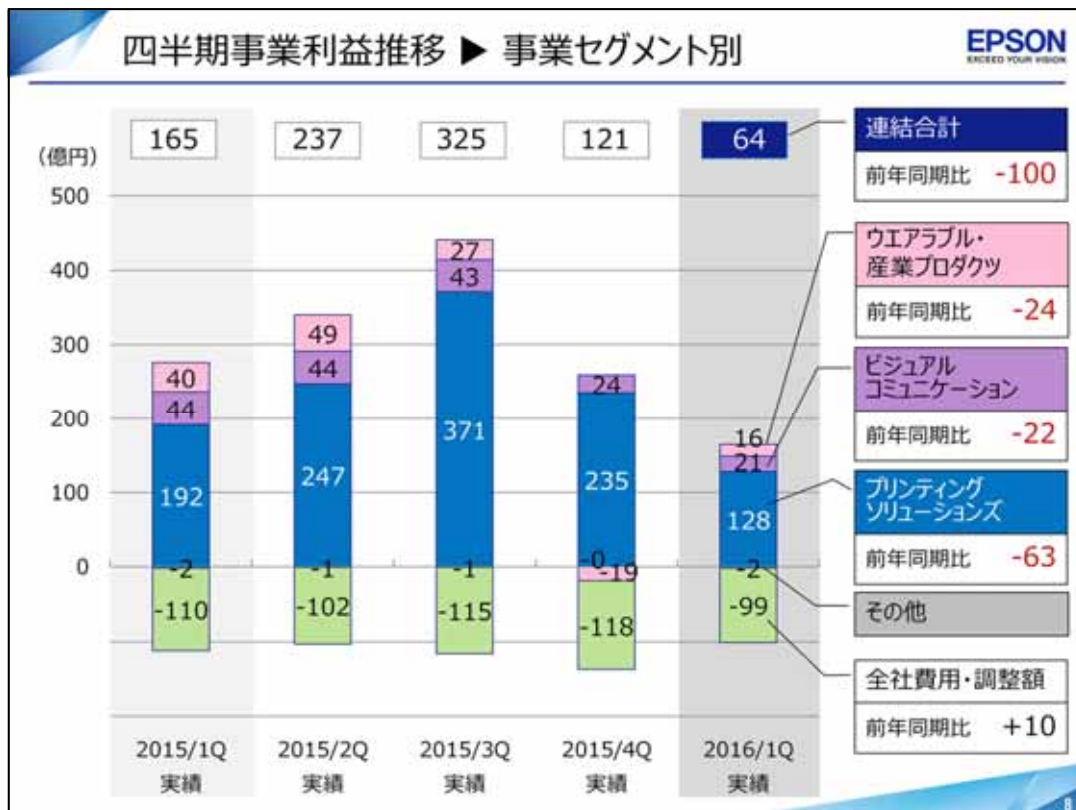
■ ウェアラブル・産業プロダクツ事業セグメントの第1四半期売上収益の前年同期比較

- ウェアラブル機器事業は、ウォッチで、市況悪化の影響により海外向けが低調に推移するとともに、国内のインバウンド需要が沈静化したことで販売数量は減少し、事業合計で減収。
- ロボティクスソリューションズ事業は、中華圏や欧米で好調なロボット需要を取り込むことで、増収。
- マイクロデバイス他は、水晶デバイスで、ネットワーク・通信関連向けや車載向けが拡大したが、パーソナル機器向けが減少。
また、半導体で、ファンドリーの商品ミックス変化や、車載用STN液晶ドライバーなどの外販が減少。
以上に加え、為替の影響により、事業全体では減収。



■ 販売費及び一般管理費の四半期推移

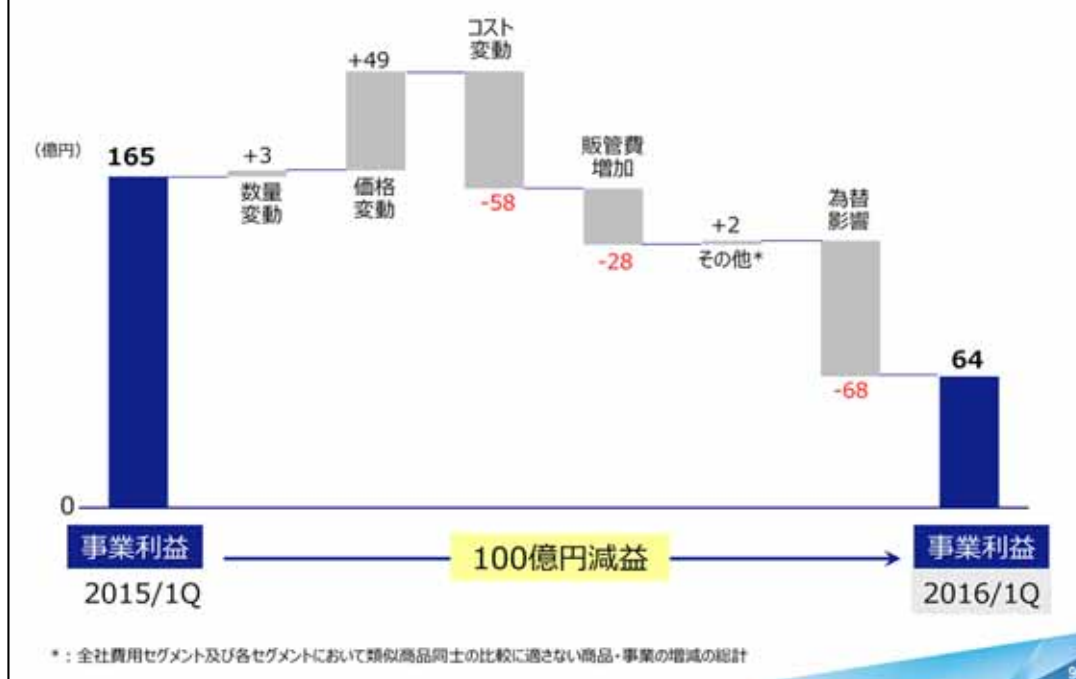
- 第1四半期の前年同期との比較では、連結合計で27億円の減少だが、これは為替の円高影響により金額が目減りしたもの。
- 当四半期は、Epson 25 第1期中期経営計画に基づき、販売促進・広告宣伝活動や営業体制などの強化を進めたことで、為替影響を除けば、約28億円の増加。



■ 事業セグメント別の四半期事業利益推移

- プリンティングソリューションズは63億円の減益。
 - プロフェッショナルプリンティング事業は、減収により減益。
 - プリンター事業では、SIDMが為替の影響により若干の減益となったが、インクジェットプリンターは、為替の影響や戦略的費用の投入などがあったものの、大容量インクタンクモデルの販売拡大やインクの売上が堅調に推移したことで、前期並みの利益。
 - ビジュアルコミュニケーションは、プロジェクターで大幅に数量を伸ばしたが、為替の影響や、普及価格帯の増加によるモデルミックス変化、戦略的な費用の投入により減益。
 - ウェアラブル・産業プロダクツも、減収により減益。
-
- 第1四半期の社内計画に対する進捗について、補足。
 - 当四半期は、社内計画に対し、売上収益、事業利益ともに若干の未達。
 - 売上収益は、プリンティングソリューションズにおいて、プロフェッショナルプリンティング事業で、POSプリンター案件の、翌四半期以降へのスライドなどがあったものの、プリンター事業で、大容量インクタンクモデルの販売数量が計画通りに進展し、インクの売上が堅調に推移したことで、セグメント全体で堅調に推移。
 - ビジュアルコミュニケーションは、南米の景気低迷による落ち込みがあったものの、アジアにおける教育案件の獲得などにより、売上収益は、ほぼ計画通りに推移。
 - ウェアラブル・産業プロダクツは、ウェアラブル機器事業で、市況悪化などの影響によるウォッチやムーブメントの減少、ロボティクスソリューションズ事業で、ロボット受注の一部減少、マイクロデバイス他で、半導体の商品ミックス変化などにより、売上収益は若干の未達。
 - 事業利益は、POSプリンター案件のスライドなどによる売上収益の若干の未達に加え、プリンター事業で、北米や西欧のオフィス向けインクジェットプリンターが好調に推移していることから、インクカートリッジモデルの生産投入数量を増加させたため、全社で若干の未達。
 - なお、この生産投入数量の増加は、通期の業績に対して大きな影響はない。

第1四半期 事業利益増減要因分析



■ 事業利益の前年同期比の要因分析

- 事業利益の前年同期比 減損額100億円の要因分解。
為替の変動により、68億円のマイナス影響を受けた。
- 数量変動は、大容量インクタンクモデルが好調なインクジェットプリンター本体、SIDM、プロジェクターなどがプラスとなった一方で、インクジェットプリンターのインクやウオッチなどがマイナス。
- 価格変動は、インクカートリッジモデルの平均販売単価低下や、半導体で商品ミックスの変化があった。
一方、中南米における通貨変動に合わせた販売価格調整や、インクやウオッチにおいて、モデルミックス変化による平均販売単価の上昇があったことで、全体でもプラス。
- なお、インクは、数量変動でマイナス、価格変動でプラスとなっているが、オフィス向けインクジェットプリンターの浸透に伴い、1個あたりの容量が大きいインクへのシフトが進んでいることが要因であり、為替影響を除く事業利益では増益。
- コスト変動は、プロダクトミックスの変化に加え、ウェアラブル機器事業やマイクロデバイス事業で、前年同期に対する生産数量の絞り込みを行ったことや、インクカートリッジモデルの生産投入数量の増加と販売価格低下に伴う在庫評価減の増加などにより、マイナス。
- 販管費は、戦略的な費用投下などにより増加。

■ 戦略面では順調なスタート

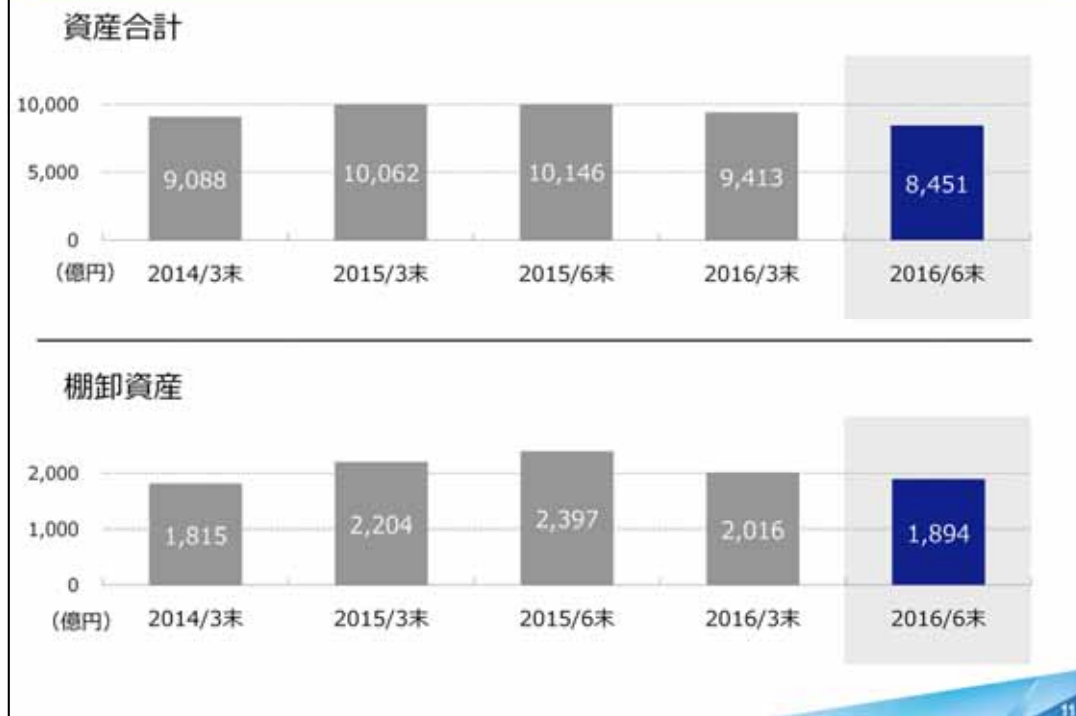
- 大容量インクタンクプリンターは順調に拡大
 - ・ 発売以来累計1,500万台達成
 - ・ 先進国（西欧・北米）での販売も増加
- インク売上は引き続き堅調に推移
- ラインヘッドプリンターの開発も順調
- プロフェッショナルプリンティングの戦略進展
 - ・ サイネージ分野の新商品が堅調に推移
 - ・ 伊ロブステリ社の子会社化によるテキスタイル分野の強化
- プロジェクター過去最高の月度販売台数記録(6月度)
- ロボット・力覚センサー販売好調
 - ・ コンパクト6軸ロボット新製品 受注開始



■ 自己株式の取得実施

■ 2016年度 第1四半期のトピックス

- 2016年度は、中期経営計画に基づき、中長期的な持続的成長の基盤を創り上げるための取り組みを強化。
- 第1四半期は、業績としては、社内計画に対して若干の未達となったが、その取り組みは、概ね順調なスタートを切ることができた。
- プリンター事業では、大容量インクタンクモデルが好調を維持し、2010年の発売からの累計で1,500万台を達成。さらに、先進国市場においても認知が進み、着実に販売が増加。
- インクの売上も、市場で稼働している本体の構成改善により、引き続き堅調に推移。
- ラインヘッド搭載インクジェットプリンターの開発も、計画に沿って順調に進んでいる。
- プロフェッショナルプリンティング事業では、昨年度下期以降に投入したサイネージ分野向けの新商品は、お客様の評価も高く、販売は堅調に推移。
- テキスタイル分野では、イタリアのロブステリ社を子会社化し、フォルテックス社も含め、お客さまへのアプローチやサポートの体制をさらに強化。
- ビジュアルコミュニケーションでは、プロジェクターで、市場が停滞する中においても、6月度で過去最高の販売数量を更新するなど、市場でのプレゼンスをさらに強固にした。手薄であった高光束の分野でも、レーザー光源を搭載した競争力がある新商品を、下期にかけて投入し、今後もさらなる拡大を目指す。
- ロボティクスソリューションズ事業では、エプソンの強みである水晶によるセンシング技術を駆使した力覚センサーの販売を開始し、好調に推移。折りたたみ式スリムアームを採用したコンパクトな6軸ロボットの受注も開始した。
- また、第1四半期には、資本効率の適正化、および株主還元強化の観点から、自己株式の取得を実施。今後も、中期経営計画に基づいて、業績やフリーキャッシュフローの状況、株価の動向を見極め、自己株式の取得は、継続的、機動的に実施していく。



■ 財政状態計算書の主要項目

- 資産合計は、円高による円換算金額の減少に加え、現金及び現金同等物、売上債権及びその他の債権と棚卸資産の減少などにより、前期末から962億円減少。
- 現金及び現金同等物の減少は、自己株式取得、社債の償還、配当などによる。
- 棚卸資産は、円高による円換算金額の減少などにより、前期末に比べ121億円減少。

有利子負債・有利子負債依存度



親会社の所有者に帰属する持分・親会社所有者帰属持分比率



■ 財政状態計算書の主要項目

- 有利子負債は、社債の償還などにより、前期末に対して 382億円減少し 1,034億円となった。
この結果、資産合計の有利子負債依存度は 12.2%となった。
- ネットキャッシュは、602億円 となった。
- 親会社の所有者に帰属する持分は、
円高による海外資産の円換算評価額の減少や、
配当の支払いなどによる減少分があったことで、
前期末に対して 438億円減少し、
親会社所有者帰属持分比率は 50.2%となった。

1. 2016年度 第1四半期決算
2. 2016年度 業績予想

2016年度 業績予想

EPSON
EXCEED YOUR VISION

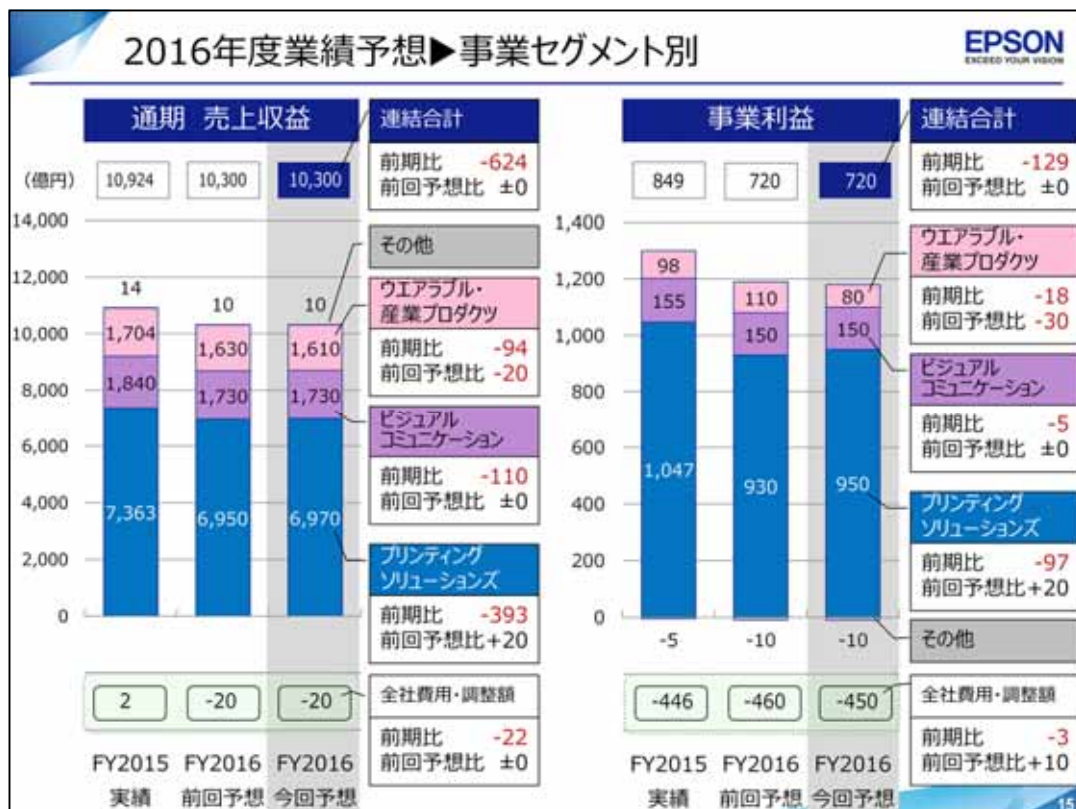
	2015年度		2016年度				前期実績比	4/28予想比
	実績	%	4/28予想	%	7/28予想	%		
(億円)								
売上収益	10,924	-	10,300	-	10,300	-	-624 -5.7%	±0 ±0.0%
事業利益	849	7.8%	720	7.0%	720	7.0%	-129 -15.2%	±0 ±0.0%
営業利益	940	8.6%	700	6.8%	700	6.8%	-240 -25.6%	±0 ±0.0%
税引前利益	915	8.4%	690	6.7%	690	6.7%	-225 -24.6%	±0 ±0.0%
当期利益	460	4.2%	540	5.2%	540	5.2%	+79 +17.2%	±0 ±0.0%
EPS	127.94 円		150.93 円		153.23 円			
換算レート	USD	120.14 円	105.00 円		106.00 円			
	EUR	132.58 円	120.00 円		121.00 円			

●今回予想 2Q以降の為替レート前提
USD : 105.00円
EUR : 120.00円

●為替感応度
・1円安での事業利益への影響
USD : △3億円 / EUR : +9億円
・1%円安の場合の事業利益への影響
USD/EUR以外の合計 : +10億円

■ 2016年度 通期の業績予想

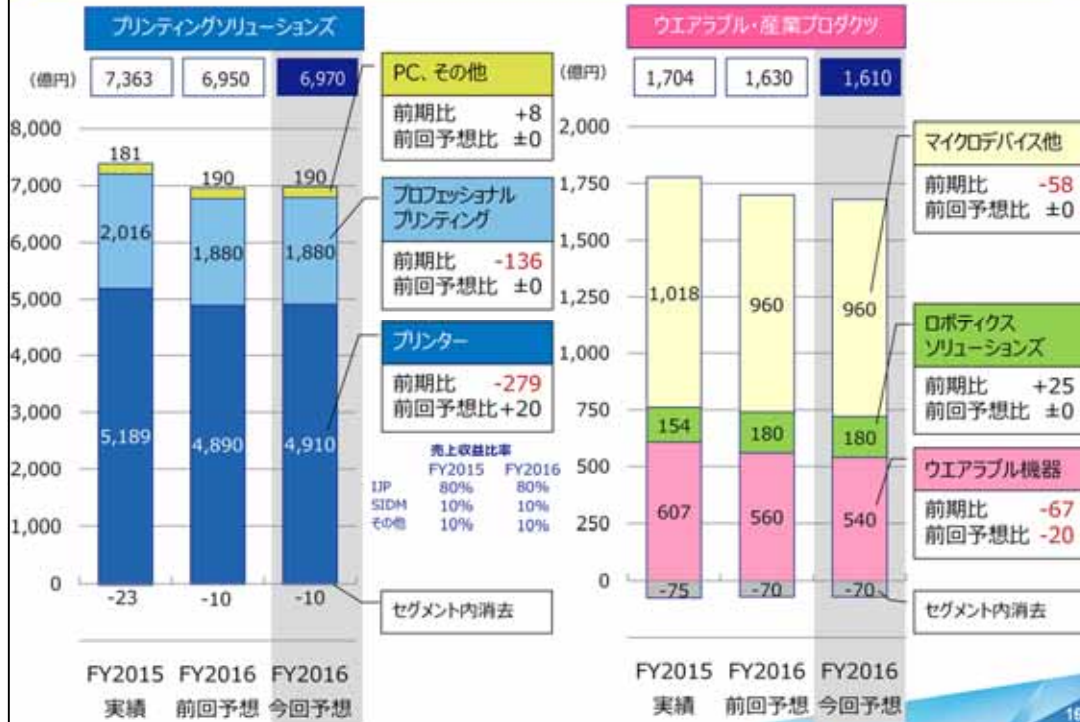
- 第1四半期における、中期経営計画に基づく取り組みについては、戦略商品の販売が堅調に拡大するとともに、体制の強化や次世代を担う商品の開発が着実に進展したことで、順調なスタートを切ることができた。
- マクロ環境や為替動向など、当社を取り巻く環境には、不透明な要素があるが、為替前提レートは、期初段階から保守的に設定していることに加え、事業面でも、業績を大幅に修正するような変調要素は、顕在化していない。
- 従って、第1四半期の事業状況や第2四半期以降の見通しを踏まえ、セグメント、事業ごとに見直したうえで、今回の通期業績予想は、連結合計を前回予想値に据え置き、売上収益は、1兆 300億円、事業利益は 720億円、当期利益は 540億円 とした。
- 第2四半期以降の前提となる為替レートも据え置き、USD105円、EUR120円。
- 1円の円安による年間の事業利益への為替感応度も、USDがマイナス3億円、EURがプラス9億円に変更ない。



■ 2016年度 事業セグメント別の売上収益・事業利益予想

- プリンティングソリューションズは、プリンター事業において、東南アジアを中心とした大容量インクタンクモデルの販売数量の増加と、堅調なインクの売上継続を見込んだ。
- その結果、セグメント全体で、売上収益、事業利益ともに20億円の上方修正。
- ビジュアルコミュニケーションは、変更ない。
- ウエアラブル・産業プロダクツは、市況悪化の影響や商品のミックス変化により、ウエアラブル機器事業の海外向けウオッチやムーブメント、ロボティクスソリューションズ事業、マイクロデバイス他を見直した結果、売上収益は20億円、事業利益は30億円の下方修正。
- 全社費用セグメントは、追加で10億円の固定費削減を織込んだ。

2016年度業績予想・事業別売上収益



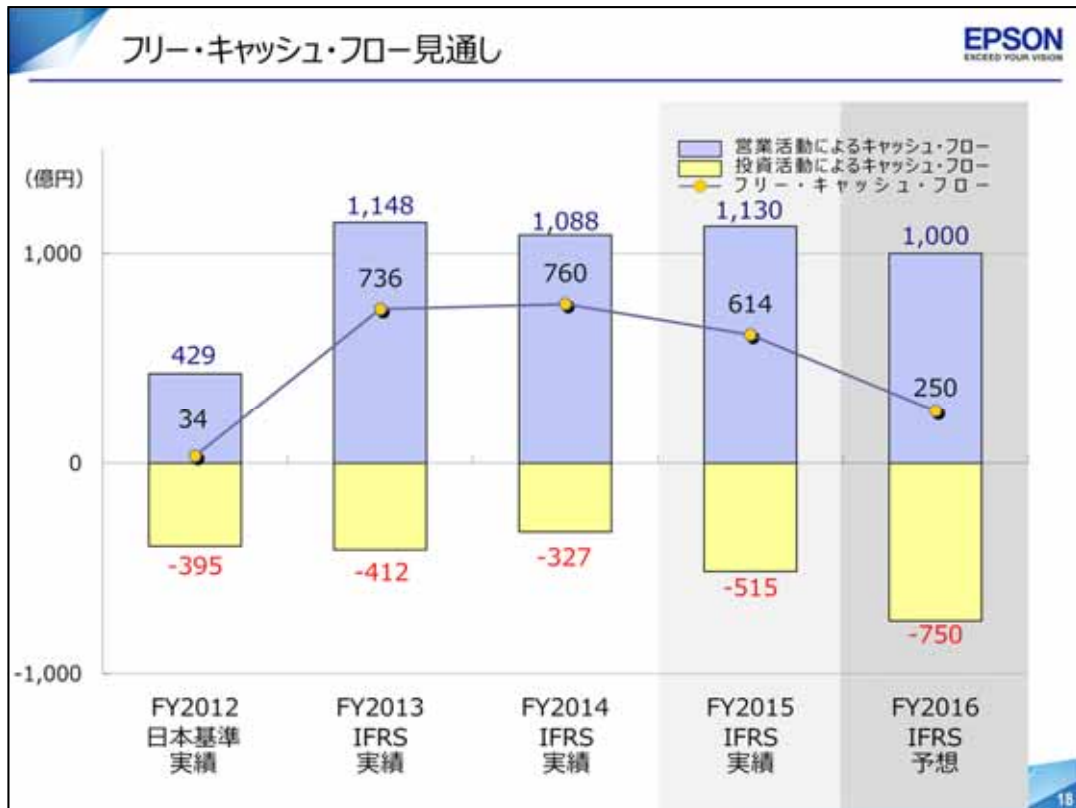
- 2016年度 プリンティングソリューションズおよびウエアラブル・産業プロダクツの事業別売上収益予想

研究開発費/設備投資・減価償却費見通し



■ 研究開発費、設備投資・減価償却費

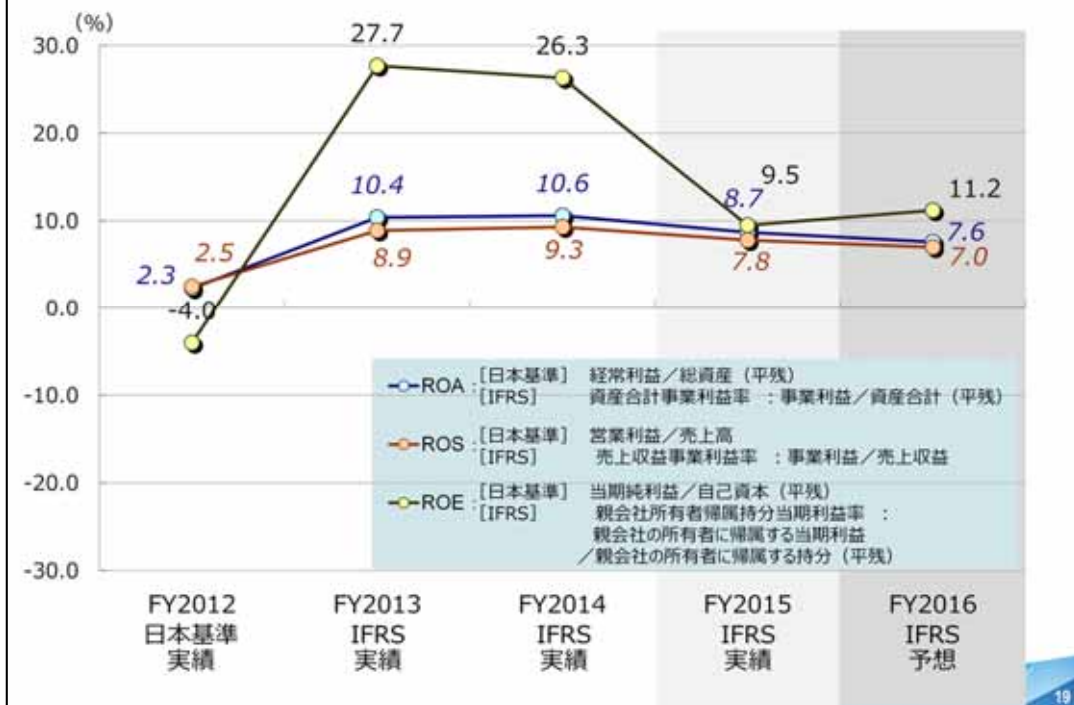
➢ 前回予想から変更ない。



■ キャッシュ・フロー

➤ 前回予想から変更ない。

主な経営指標の推移



■ 主な経営指標

- 以上の業績予想に基づく主な経営指標も、前回予想と同様で、
 ROSが 7.0%
 ROAが 7.6%
 ROEが 11.2%。

補足資料

主な業績指標

(億円)					(億円)			
		FY2015 実績	FY2016 7/28予想	FY2018 目標	項目	FY2015 実績	FY2016 7/28予想	Epson 25 第1期累計
プリンティング ソリューションズ	売上収益	7,363	6,970	8,050	営業CF	1,130	1,000	3,300程度
	事業利益	1,047	950	-	FCF	614	250	1,200程度
ビジュアル コミュニケーション	売上収益	1,840	1,730	2,000	設備投資	694	800	2,100程度
	事業利益	155	150	-	研究開発費	531	570	積極的に投下
ウェアラブル・ 産業プロダクト	売上収益	1,704	1,610	1,950	為替前提			
	事業利益	98	80	-		FY2015 実績	FY2016 7/28予想	Epson 25 第1期中期
その他	売上収益	14	10	0	USD	¥120.14	¥106.00	¥115.00
	事業利益	-5	-10	-	EUR	¥132.58	¥121.00	¥125.00
全社・調整額	売上収益	2	-20	0				
	事業利益	-446	-450	-				
連結合計	売上収益	10,924	10,300	12,000				
	事業利益	849	720	960				
	ROS	7.8%	7.0%	8%				
	ROE	9.5%	11.2%	継続的に 10%以上				

主要商品の販売動向

FY2015実績(FY2014比)・FY2016予想(FY2015比)

ASP,売上金額は日本円換算後

商品		FY2015 通期(実績)	FY2016 1Q(実績)	FY2016 通期(予想)
IJP 本体	数量	+1%	+8%	+7%
	数量構成比 オフィス/大容量	約20%/約35%	-	約20%/約40%
	ASP	+1桁%台前半	-10%程度	-1桁%台後半
	売上金額	+1桁%台前半	-1桁%台前半	前期並み
IJP インク	数量	0%	-3%	-
	ASP	+1桁%台半ば	-1桁%台前半	-
	売上金額	+1桁%台半ば	-1桁%台半ば	-1桁%台後半
SIDM 本体	数量	-6%	+19%	+18%
	ASP	+1桁%台前半	-20%台半ば	-10%台後半
	売上金額	-1桁%台前半	-10%程度	-1桁%台半ば
プロジェクター	数量	+2%	+9%	+4%
	ASP	+1桁%台前半	-10%台半ば	-10%台前半
	売上金額	+1桁%台半ば	-1桁%台後半	-1桁%台後半

本資料は、エプソン内部の管理値に基づく指標です。

EPSON
EXCEED YOUR VISION